

令和 5 年度公益社団法人日本看護協会通常総会が、6 月 7 日千葉県の幕張メッセにて開催され、代議員として参加しましたので報告いたします。今年度は、新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行したことを受け、4 年ぶりに事前申し込みが必要でしたが一般参加者も会場に入り、代議員 746 名が全員参加という形での開催となりました。

開会式では、千葉県看護協会寺口恵子会長、千葉県知事、千葉市長より歓迎の挨拶があり、続いて福井トシ子会長が次のように挨拶されました。長期のコロナ禍の対応に対して看護職への敬意を表され、そのためにも看護職の処遇改善やキャリアアップの必要性を強くのべられ、G7 への参画なども通じて労働環境整備の実現をしていく旨を強くおっしゃられました。次にこの度、前長崎県看護協会長のひき逃げ事件についての説明と共に、現長崎県看護協会長の謝罪もありました。人の命を預かる看護職として皆が旨を痛めた出来事でした。

引き続き優良看護職員の厚生労働大臣表彰が行われ、和歌山県からは黒田美也子様を受賞、日本看護協会会長表彰では、142 名の中で和歌山県からは岡本恭子様を受賞されました。

続いて、議決・報告事項があり、質疑に入りました。報告事項では、令和 4 年度事業報告と決算報告及び監査報告、令和 5 年度重点政策・重点事業並びに監査報告、資金収支予算及び収支予算について報告がありました。時間を超過するほどの多くの質疑がありました。災害看護師の派遣の現状や、看護補助者の確保、育成、定着の課題、引き続きのコロナ支援、感染管理の現状、看護小規模多機能型居宅介護の推進における課題、生涯学習の在り方、基礎教育 4 年制に向けた働きかけ、産業保健師の位置づけ、看護 DX に向けた具体策、看護配置の現状、タスクシフト・シェアと働き方改革、資格認定制度の見直しなど多岐に渡るものでした。和歌山県からは、外来機能強化について質問を致しました。外来看護師が療養支援を必要とする患者に継続的に関わり、支援することの重要性が明らかになっていますが、現状は病棟配置基準の縛りなどで外来看護師の配置課題やドクタークラークとのタスクシフトなど、育成や研修計画があっても忙しい現場では課題が多いと伝えました。吉川常任理事からは、患者像、実態に合わせ救急体制含めた職員配置については政策として提言していることのことでした。人材育成については 10 月から e-ラーニングで在宅療養支援についてのプログラムの配信を予定しているとのことでした。

2023 年度改選役員及び推薦委員の選出では、福井トシ子会長が 3 期 6 年を迎え、会長候補者として高橋弘枝氏が推薦され、投票の結果、新会長となりました。副会長、理事につきましても全員投票にて過半数の賛成があり、全員当選されました。

閉会式では井伊副会長より、滞りなく会を終了できたことへの感謝と 2023 年度に向けた決意を述べられました。

また今回、会場では、『看護師のまなびサポートブック』『生涯学習支援ガイドブック』の 2 冊子が配布されました。日本看護協会のホームページで紹介されています。是非、ダウンロードして手に取ってご覧ください。

代議員報告は以上です。